

令和6年度 石川県立盲学校 自己評価（最終評価）

令和7年3月25日

重 点 目 標	具 体 的 取 組	主 担 当	実 現 状 況 の 達 成 度 判 断 基 準	集 計 結 果	分析（成 果 と 課 題）及 び 次 年 度 の 扱 い（改 善 策 等）	
① 授業実践力の向上	他の教員の授業参観や、県教員総合研修センターの授業ビデオ等を活用し、自分の授業に活かす。	教務課 全学部	校内あるいは校外において、他の教員の授業を2回以上参観して授業改善の視点を持ち、自分の授業に活かした教員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	D (57%)	校内あるいは校外において、他の教員の授業を2回以上参観した教員は57%であった。1回以上参観した教員は95%であった。参観した全ての教員が教材や発問の工夫などの授業改善の視点を得ていた。今後は、学校研究と連携するなどし、教員一人一人の授業実践力の向上を目指した授業研究の在り方を検討していくたい。	
学校関係者評価委員会の評価	参観したことや助言者からの助言を、自分の授業に生かせるとよい。あらかじめ、計画を立てて、参観する時期を決めるところに評価が上がるのではないか。					
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	授業実践力の向上に対する取り組みは今後も継続していく。今年度、学部を越えたグループ研究で授業研究を行い、他学部の教員と意見交換する研究体制を整備した。学校研究と関連させ、各教員が、授業づくりの検討会や参観した授業から学んだことを自分の授業に活かし、授業力を高めるよう努める。					
② 専門性の向上とセンター的機能の充実	各教員が専門性チェックシートを活用し、個別に目標を立てて、視覚障害に関する専門性の向上を目指す。	支援課 全学部 寄宿舎	チェックシートで自己の課題を確認し、研修等に取り組み、専門性が向上したと感じる教員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	A (91%)	専門性チェックの得点が上がったと答えた割合は91%であった。得点は上がらなかつたが、具体的に専門性の向上を感じている教員もいる。チェックシートを活用することで、課題が可視化され、取り組み内容が具体的になり、専門性の向上につながっている。今後も継続して取り組んでいきたい。	
学校関係者評価委員会の評価	県内での視覚障害教育に関する研修受講が難しいが、学校で工夫して専門性の向上に努めている。オンラインでの研修や書籍等を活用し、継続して専門性の向上に努めていくとよい。					
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	各自が自己的経験や課題に応じて具体的な目標設定をし、専門性チェックシートを活用しながら、研修を継続する。講師を招聘した研修会の設定やオンラインを活用した外部研修等への参加、書籍を読むなどして、専門性の向上に努める。					
③ キャリア教育の推進	キャリア教育全体計画をもとに児童生徒のキャリア発達の課題を把握し、目標や教育内容・方法、各教科の関連等を考慮しながら実践し、キャリア教育の充実を図る。	進路課 全学部	全体計画を活用した計画的、組織的なキャリア教育を実践できたと感じる教職員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	A (80%)	キャリア教育は教育活動全体で行うものと共通理解を図ったことで達成度は80%となった。今後も、各学部および寄宿舎で、全体計画のもと、児童生徒の発達段階に応じた実践目標を持ち、キャリアパスポートを活用しながら、教育活動に取り組んでいく必要がある。	
			キャリア発達の課題を理解し、目標を決めて取り組み、目標を達成した児童生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	A (80%)	多くの児童生徒は、高い目標を立て、それに向かって取り組んでいる。達成できなかつたとする生徒が3名いるため、日頃から教育活動全体を通して、自身の目標を意識できるような支援をし、成長を促していくたい。	
			H Pや学級通信、懇談等を通して、キャリア教育全体計画に基づいた教育活動について、理解できた保護者の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	A (92%)	保護者の理解に向け、伝える内容を検討し H Pや進路だよりで広報した結果、理解できたと回答した保護者の割合は92%で、中間評価より8%増えた。今後も継続して情報を伝えていく。また、幅広い進路選択に向けた説明会や資料作成などに取り組み、キャリア教育について周知していきたい。	
			キャリア教育の視点を持って、舎生が話し合って寄宿舎の活動や行事を企画する場を設定することで、寄宿舎生活の充実を図る。	寄宿舎	他者の意見を聞くことができるようになった、自分の考えを相手に伝えることができるようになったと答えた舎生が A 4人以上 B 3人 C 2人 D 1人以下	A (5人)
学校関係者評価委員会の評価	小規模校であることが学校の特色である。多くの人と活動する機会や様々な経験をし、将来の社会参加につながる力が付くとよい。社会生活のイメージが持てるよう、メンタルトレーニングやイメージトレーニングに取り組んではどうか。					
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	児童生徒の目標を学部内で共有し、キャリア教育全体計画に基づいた、児童生徒一人一人の目標を意識した教育活動を行い、キャリア発達を促す。その際、キャリアパスポートを活用し、児童生徒の実態に応じた進路実現に向けて、引き続き、関係機関との連携を行う。また、進路に関する教育活動については、保護者への情報提供を行い、家庭とも連携しキャリア教育を推進する。					
④ 校務分掌等の業務改善	業務のデジタル化によって、業務の効率化、ペーパーレス化を推進する。	全学部	デジタル化、ペーパーレス化、環境設備を意識して業務を遂行し、効率化につながったと感じる教職員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B (74%)	情報共有、会議資料のデジタル化等により、紙資料の印刷、整理が削減され効率化につながったとの意見が多かった。今後、保護者配付資料の配信、会議資料の更なるペーパーレス化を検討したい。職員の I C Tに関するスキルの差が課題となっており、スキルアップについて検討する必要がある。	
学校関係者評価委員会の評価	少人数の学校では、一人でいくつもの業務を行うことが多い。視覚障害のある教員も情報を共有できるような閑居整備や業務を行いやすい方法の工夫を行うとよい。次の担当者に業務を引き継ぐことを考え、書類やデータを整理しておくことも大切である。					
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	校内での教員用の資料のデータ化、ペーパーレス化は進んできているが、児童生徒が少人数であることから、配付物のペーパーレス化が進まない状況にある。単にペーパーレス化を推進するのではなく、業務の効率化の視点を踏まえ、更なる会議資料のペーパーレス化や保護者への配付物の配信を検討する。					